

2 学年だより

夢の宅配便

2 年学年主任

水野 喜代治

1組が学級閉鎖

新型コロナウイルスの感染が広がっています。オミクロン株の感染力は強く、新型コロナウイルスの感染力は我々の生活の中にも入り込んできました。マスク着用と手洗いは学校生活で習慣化されて徹底されていると思います。また、朝の健康チェックカードの記入も各自が自覚を持ってできていると思います。保護者の方の協力もあり、2年生で検温を忘れて登校する生徒はいなくなりました。

昨日から2年1組が学級閉鎖となりました。1組の生徒は4月29日（金）まで自宅でリモート授業となります。マスクを着用し、給食の黙食も徹底しているのに、新型コロナウイルスの感染力の強さをあらためて実感させられました。家族で発熱者が出た、発熱はないが喉が痛い、頭が痛いなどの状況や症状があるときは、登校を控えて様子を見ていただけたらと思います。今回のコロナウイルスに罹患した生徒に共通した症状に喉の痛みがありました。喉が痛い時は、体調管理を特に注意してほしいと思います。ご協力よろしくお願いします。

鎌倉その2

平安時代の終わり頃から、世の中は乱れ地獄のような世界が訪れると人々は恐れていました。いわゆる末法思想です。仏教を開いた釈迦は、「私が亡くなってから、約2千年ほどで、仏法の力は弱まり世の中が乱れる。」と預言しました。この乱れる世は「末法の世」と呼ばれました。平安時代の終わり頃から、武士が台頭し、保元の乱、平治の乱、源平合戦、承久の乱と大きな戦いが連続的に起きました。まさに、末法の世となったのです。この末法の世から人々を救ってくれるのが阿弥陀如来と信じられました。平安時代の終わりから鎌倉時代にかけて、阿弥陀仏如来にすがり救いを求める信仰が急速に人々の間に広がっていきました。阿弥陀如来は極楽浄土の世界に住んでおり、浄土の世界に人々を導いてくれると言われました。阿弥陀如来像を権力者は祭り、信仰しました。鎌倉の大仏は、巨大な阿弥陀如来像です。高德院の鎌倉の大仏を見るときに、鎌倉幕府を支配していた執権北条氏もこの大仏に手を合わせていたと想像が膨らみます。阿弥陀如来が、我々の前に現れることはまずなく、代わりに阿弥陀如来に使っている観音菩薩が我々の前に現れます。観音菩薩は非常に身近な仏です。末法の世から逃れるために、人々は阿弥陀如来の使いの観音菩薩に手を合わせて阿弥陀仏とつながろうとしました。長谷寺の観音菩薩像を見ると当時の人々の願いが伝わってきて歴史を肌で感じるすることができます。

